

ノルウェーからの報告 追加資料

No9 スライド 生徒メディエーターの意見

なぜなら、いつでも相談できる生徒がいるべきだし、友達はいつもそこにいるわけではないし、もしかしたら病気かもしれない。そして、昼休みや休み時間に誰かと話したり、一緒に座ったりしても、場違いな感じがしないし、一人でいることが居心地が悪いと感じることもないからだです。

No11 スライド 社会教育教師との対談

ニーナ：

今日は、クリスチャン・アンサーさんをお招きしています。彼女は小学校で社会科の教師をしています。クリスティンさん、セーフ・ラーニング安全な学習とは何か、修復的実践の方法とは何か、何も知らない人たちにどのように説明するのがよいのでしょうか？

クリスティンさん：

セーフ・ラーニングというと、ツールブックを思い浮かべます。紛争を解決するためのさまざまな方法を学ぶためのものです。この予防するツールを用いる前に、予防するツールとは何かということ、紛争の背景、紛争と自分自身との関係についてよく知ること、目標がどこに向かうのかということについて、よく理解していくことが大切です。ですから、それらとの関係を修復することが目標になるということについて理解できるような質問をします。多くの異なる方法で、社会的で、建設的な、社会的な力と連携して、教室の良い雰囲気を作る方法について話し合います。

ニーナ：

はい、では、どのように実際にはこれを行うのですか？

クリスティンさん：

私たちの学校では、生徒間の対立がある場合、さまざまな方法でセーフ・ラーニング安全な学習を行っています。

私たちは3つの質問をします。何が起こったのか、そのことについてどう思うか、そして、それについてどう思うか、将来についてどう思うか。

私たち教職員は、生徒と話すのではなく、生徒と話すことを決意しています。私たち教職員は、時々、話す必要があるのです。私たちは常に、何かの後に、話をする必要があります。

また毎月、すべてのクラスで、学校全体が同じ目標を掲げてワークショップを開催しています。年齢によって異なるワークショップです。生徒がサークルに座り、話したり、遊んだり、さまざまなエクササイズをします。このとき、まだ特定の問題について話し合うことはしませんが、サークルの中で話すだけで、生徒たちは様々な問題を感じることができるようになります。

私たちには、プレイメディエーターがおり、学校の環境を整えてくれます。

6年生になると、全員が紛争について学ぶワークショップを受けます。そして、その対処法を学び、生徒たちはメディエーターになることを申請することができるようになります。紛争で緊張している生徒とどのように話すか、また、さまざまな方法で助けを必要としている生徒をどのように発見するかということを選択することになります。多分彼らは、孤独だったり、悲しかったり、誰かと遊ぶ必要があり、または紛争に対処するための支援を必要としているかもしれません。

7年生になると、調停役が必要になります。安全な学習については、まず保護者会で説明をします。6年生の時に、それが重要であることを伝えます。これは、私たちにとって重要なことです。保護者は、私たちが葛藤や対立についてどのように考えているのか、子どもたちとどう話しているかを知ることになります。

ニーナ：

素晴らしいですね。このようなことを伝えると、親たちはどのような反応をするのでしょうか。

クリスティン：

彼らは、とても素晴らしいと思っています。私たちがこの話をすると、保護者についても（笑いながら）葛藤とどのようにしていますか？会議などで平和的に話し合えていますか？などと話し、もし対立しているのなら、それを解決することが容易になると思いますよ、と伝えていきます。彼らは非常に満足していると思います。